

稲の新しい栽培方法により2割の増産 - フィリピン レイテ島

カロリーオフセットではフィリピンのレイテ島で農業支援を実施しました。2013年の大型台風ハイヤン以降、災害に強い作物の栽培を推進しています。

稲作についてはSRI農法（The System of Rice Intensification 稲集約栽培法）とよばれる手法が導入されました。苗の植え付け間隔を従来よりも広くして、灌水と排水を繰り返し、堆肥を使うなどの特徴が挙げられます。

SRI農法で栽培した稲は、根の発達が著しく、一株あたりの粒数が多くなります。農薬の使用量も減らすことができ、田んぼに水を満たさない期間を設けるため、用水量も抑えることができます。

2016年のモデル耕作地での栽培では面積あたりの収穫量が20%以上増えました。地元農家はモデル耕作地で学んだ方法を、自らの田んぼで実践しています。

143

の農園ができました

（2017年6月時点）

年に2回の収穫



レイテ島では稲の二期作が一般的です。1回目の種まきや田植えは12月から1月にかけて実施され、初夏に収穫期を迎えます。

小規模農家が生産者組合を結成



地域ごとに結成された農家組合は共同管理の菜園を設置し、新しい作物の栽培や、有機栽培の手法を学んでいます。収穫した野菜は市場で販売し、構成農家で収入を分け合っています。生産者組合の結成により、農業機械を共同購入・レンタルしたり、仕入業者との交渉力を高めることも期待されています。

組合員は農業だけでなく、鶏や豚などの家畜の飼育にも取り組んでいます。



レイテ島は、フィリピン中部のビサヤ諸島の島です。約190万人の島民の多くが農業に従事しています。大型台風ハイヤンが直撃した際は、島全体で1万人以上が犠牲になりました。カロリーオフセットでは、従来のココヤシに加え、災害に強く短期間で育つ作物の栽培を推進してきました。